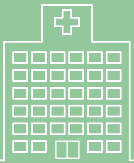


八鹿病院 ニュース



2014年

4月号

地域に暮らす人々と共に
心あたたかな医療をすすめたい



脳神経内科回診の様子

● yoka hospital 「医療」

ALS ケアチーム

- 現場レポート！「画像診断科」
- 栄養管理科の挑戦「やわらか食」を開始します
- トピックス

公立八鹿病院基本理念

私たちは、地域中核病院として、医の倫理を基本に、質の高い医療と優れたサービスをもって、住民の健康を守り、地域の発展に尽くします。



当院は敷地内全面禁煙です
ご協力宜しくお願い致します

ALSケア チーム

難病ALSの患者さんを
多職種でサポートしています

ALSは、テレビドラマ「僕のいた時間」(フジテレビ・2014年1月〜3月放送)で三浦春馬さんが患者役を演じた病気です。原因不明で全身が麻痺していくALSは難病中の難病と言われ、全国で約9千人が療養されています。全身が麻痺し、人工呼吸器を使用するようになっても意識はしっかりしているのがこの病気の特徴です。ドラマの中でも、手足の麻痺など身



病棟・外来看護師

食事や入浴など日常生活の介助、退院後の介護者への指導や各患者さんの情報収集を行います

医師



病気の診断や治療、自力での呼吸が困難な方への気管切開や呼吸器装着の説明や合併症に対する治療を行います。

理学療法士



残された筋力を少しでも維持するための筋力運動や装具の工夫、関節の可動域運動や呼吸のリハビリを行います。

作業療法士



僅かな動作を利用し、生活動作の補助となる意志伝達装置や視線を利用して会話する文字盤の工夫、コールスイッチの製作などを行います。

言語聴覚士



喉の筋力低下による発語・嚥下の運動を行います。

音楽療法士



歌やピアノ演奏など音楽を通して癒しや楽しみ、心のケアを患者さんやご家族にお届けします。

薬剤師



薬の説明や患者さんに合った服薬方法の検討を行います。

歯科衛生士



肺炎など口からの感染症を防ぎ、口腔内を清潔に保つために口腔ケアを行います。

臨床工学技士



人工呼吸器など医療機器の管理や指導、点検やトラブル時の対応を行っています。また、在宅での点検等も行っています。

院内のALSケアチーム



回診やカンファレンスなどチームで定期的な情報交換や治療方針の検討、スタッフ間の連携も日々行われています。

体の不自由さだけでなく、仕事や家庭などの社会的問題、不安などの心理的な問題、生きていることの意味などがよく描かれていました。

多くの問題を抱えているため、種々の専門職の関わりが必要になります。当院では、1990年に全国にさきがけてこの病気への取り組みを開始しました。ALSケアチームを中心に、在宅療養と入院療養が選択でき、人工呼吸器を装着したあとも有意義で生きがいのある生活ができることを目指しています。

これまで80名のALS患者さんが療養され、うち49名はかかりつけ医や健康福祉事務所などの関連機関と連携し、人工呼吸器を使用しながらの在宅療養を支援しました。

当院の活動は、厚生労働省の研究班報告会や、県の保健師に対する研修会、各地の研修会への講師派遣、雑誌や新聞、テレビでの紹介などで全国から注目されています。

在宅療養に向けて院内・院外機関が支援体制を検討 院外機関との退院前合同カンファレンス



院内ALSケアチームをはじめ、かかりつけ医、急変時に搬送する救急隊、ホームヘルパー、ケアマネジャーなど外部からも専門スタッフが多数参加し、時には家族とともに患者さんも参加されます。



生活支援員

日常生活の介助をはじめ誕生日会や季節行事の企画・実施を積極的に行っています。



臨床心理士

患者さんとの会話の中で精神面の分析やケアを行っています。



病棟での季節行事や病院外でのお花見や散歩など楽しみや生きがいを感じるお手伝いをしています。



在宅でも診察や音楽療法など 患者さん・介護される方を支援しています

週1回医師・看護師による訪問診察を行い患者さんの状態チェックを行います。カニューレ交換など医療処置に加え、一緒に歌を楽しむ音楽療法を取り入れるなど患者さんやご家族に対して癒しを提供しています。また、福祉センター訪問部門とも密に連携をとり情報交換を行っています。



医療ソーシャルワーカー

院外機関との窓口として利用できる福祉サービスなどの各種調整を行っています。

管理栄養士



食事形態の工夫、ミキサー食の指導を行います。ミキサーにかける前の献立も見ていただきながら説明するなど食事の楽しみを感じられる取り組みも行っています。

チームの取り組みは新聞、雑誌でも多数取り上げられています▶



脳科学注目の技術「BMI」の研究にも協力しています



以前より、最新の意思表示の手段であるBMI (Brain machine interface) の研究 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所) に協力しています。BMIとは微弱な脳波を感知・解析し電気信号に変換することで目で見たものが操作できるという画期的なシステムです。この実験の様子は、今年2月にTBSテレビの「ニュースキャスター」にも取り上げられました。

◀ 実験を見守る神作室長、高野研究員と当院スタッフ



画像診断科

当院の画像診断科は、最新の検査装置と技術でよりよい画像検査を患者さんに提供しています。

都会の病院・大学病院にも負けない装置と医療技術の向上

画像診断科では、様々な検査方法と診療放射線技師の技術を利用し、患者さんの体の隅々を隈なく診ていきます。胸のX線写真を撮影する際によく「息を吸って」と止めて下さい」と耳にすると思います。この言葉はCT検査、MRI検査、超音波検査などの検査でも幅広く使われています。息を吸うことで横隔膜が下がりがり胸の中が、息を吐くことで横隔膜が上がりお腹の中が診やすくなります。何気ない言葉に聞こえますが、実は検査の目的部位に合わせた息

止めを行い、病変を見つけやすい工夫を行っています。画像診断科内には、たくさんの検査装置があり、それぞれの装置の特殊性に合わせて検査を選び、病気の発見や治療を行います。地方の病院ですが、当院の装置は都会の病院や大学病院

にも負けない装置ばかりです。私達スタッフも早期発見ができる医療技術の向上を目指し、日々鍛錬を重ねています。検査に対する不安やわからないことなど、お気軽にお尋ねください。



【乳房検査】
(マンモグラフィ)

当院では、女性技師しか対応しません。3名のマンモグラフィ認定技師が検査を担当します。施設認定も取得していますので高度な検査を受けることができます。



【血管造影撮影】

血管に造影剤を注入し、診断・治療します。CT装置と連動した装置で病変部分をより分かり易くしたり、治療判定にも重要な役割を果たします。心臓血管専用の装置も配置しています。

病室での撮影にも対応

動けない入院患者さんを対象に移動式の装置を使用し各病室での撮影にも対応しています。



地域を巡り検診率と早期発見に努める

地域での検診

各地域に出向いて、腹部超音波検査や乳房超音波検査を行います。地域の方々と直接ふれあえる場、検診の大切さを感じていただく場として地域での検診は大切な取り組みの1つです。



放射線を利用しがん細胞を死滅させる

放射線治療

高エネルギーを使ってがんなどの病気の部分だけを治療します。CT画像も使用し病変に効果的な治療を行えるよう計画しています。女性技師も対応します。



治療の不安が少しでも和らぐよう、壁が自然をイメージした風景写真になっています。

様々な撮影機器で異常を見つけだす

画像検査

最新鋭の装置を駆使し体の隅々まで画像化して病気の検査をします。「待たさない、待たせない」をモットーに日々医療技術の向上に励んでいます。



【RI検査】

日本で導入1号機の装置です。核医学の検査は但馬でも豊岡病院と八鹿病院でしか検査することができません。



【CT検査】

最新の装置、最新の検査を行っています。心臓、大腸や血管などの画像を苦痛なく抽出します。



【MRI検査】

朝から晩まで画像診断で一番よく稼働している装置です。CT検査に比べ検査時間がかかり大きな音がありますが、異常をよりの確に判断できる画像が得られます。



栄養管理科の挑戦！

「やわらか食」を開始します

入院患者さんの状態に応じ医師の確認のうえ提供している病院食。この4月より新しい食種「やわらか食」を開始することになりました。

やわらか食ができるまでの食事形態

従来、当院では食事が飲み込み難い状態（えんげ困難）の入院患者さんに対して、ソフト食を提供してまいりました。このソフト食は、使用する食材や形態（見た目や柔らかさ）などについて検討し、何度も試作・試食を繰り返して、平成22年9月より入院患者さんに提供しています。

さらに、ソフト食を開始する以前は、えんげ困難な患者さんの食事といえば、出来上がった料理をほぐしたり、フードカッターや包丁で細かく刻んだ「きざみ食」を提供してまいりました。原型をとどめず元の食材や料理が一体どんなものだったかも解らないため、食欲も湧かないような状態でした。それに比べソフト食は、見た目にもきれいで、何を食べているのかも解りやすい食事として好評をいただいています。

ソフト食2号



以前のきざみ食

トロミ汁はないが柔らかさはソフト食1号とほとんど変わらない。入れ歯調整中の方にもおすすめ。

ソフト食1号



以前のきざみ食
（とろみ付き）



専用の食材を加熱調理し、さらにトロミ汁をかけることで飲み込みやすくしている食事。

ソフト食2号

飲み込みはできるが、歯がないなど嚙む力が弱い方

ソフト食1号

食事の飲み込みが困難な方

当院病院食の 主な食事形態

柔らかい



普通食とソフト食の橋渡し役 「やわらか食」の誕生

しかし、患者さんやご家族の方からは「やわらかすぎる」という声、また病棟の看護師さんからは、えんげ訓練を行う上でソフト食と普通食の差がありすぎて段階をふめないなどのご意見もいただいていた。

そこで栄養管理科では、今年4月からの開始を目標に急ピッチで新しい食種である「やわらか食」の開発に取り組みました。この「やわらか食」は、専用の食材を用いたり、かなり手間はかかりますが圧力鍋を使用して普通食と同じ食材を「よりやわらかく」する調理方法を献立担当栄養士と調理師と一緒に考えました。

この「やわらか食」は、主に入院直後には非常にやわらかいものしか食べられなかった患者さんが、良くなったけど普通の食事を食べるにはまだ早いという状態に対応する食種です。見た目は普通食と変わりませんが、食品の素材やひと手間かけた調理方法により、適度に歯ごたえがあり、しかもやわらかくなるよう工夫されています。

今後も、入院患者さんとそのご家族の方へ、少しでも満足いただける食事を提供できるよう努力してまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

新食種

やわらか食



専用の食材や圧力鍋を使用したり、お肉には酵素の力を利用するなど、工夫をこらして調理。見た目はほとんど普通食だが、食べると柔らかいのがわかる。ソフト食と普通食の間に段階を作ることでえんげリハビリのサポートが可能になった。



試食会も行っています

意見を出し合い、満足度の高い病院食となるよう、随時試食会も行っています。3月25日のやわらか食試食会でも、「鶏肉は舌で潰せるね」「ひじきは硬いかな」など様々な意見が飛び交っていました。また、えんげリハビリを行う言語聴覚士にも声かけし一緒に試食してもらいました。



病院食が入院生活の中で楽しみとなり
満足していただけるよう今後も努力します！



普通食

飲み込みや嚥む力に問題がなく、普通に食事が摂れる方

やわらか食

飲み込みや嚥む力が少し弱く、普通食では硬すぎるという方

硬い ←

トピックス

1月19日 第50回八鹿病院寄席 開催

この八鹿病院寄席は、平成17年9月から2ヶ月に1回定期的に開催しています。但馬でも人気の落語家さんにお越しいただき、入院患者さん、ご家族の方や地域の方々に楽しんでいただいている院内イベントです。最後に、今までの感謝の気持ちを込めて花束と50回の記念品を贈呈させていただきました。今後も「笑い」の力で入院患者さんや地域の方々に楽しんでいただきたいと思います。



楽しい演目に会場は笑いで包まれました

4月より全病室のテレビが 地上デジタル対応、BS視聴 可能になります

病室のテレビが2014年4月より順次新しくなります。新しいテレビでは、地上デジタル放送対応の高画質をお楽しみいただき、以前よりご要望いただいていたBSデジタル放送の視聴も可能になります。なお、テレビ用イヤホンも付属していますのでご購入やご用意の必要がなくなります。



医師異動のお知らせ

【新任医師】 ~よろしくお願ひします~

■平成26年1月15日付 ■4月1日付



【麻酔科】
まえかわ のぶひろ
前川 信博



【院長】
たにがぜ さぶろう
谷風 三郎



【内科】
ふくい みほ
福井 美保



【内科】
いのうえ たつや
井上 達也



【内科】
ごうだ なほ
合田 菜穂



【緩和ケア科】
きしもと ひろゆき
岸本 弘之

【退任医師】 平成26年3月31日付

~お世話になりました~

【院長】宮野 陽介 【放射線科】久家 圭太

【内科】大北 弘幸 【麻酔科】小濱 華子

【内科】川西 康太郎 【歯科口腔外科】岡本 秀治

【内科】杉山 陽介 【研修医】山本 裕也

【内科】布施 由佳 【研修医】鷲尾 輝明

【泌尿器科】濟 昭道 ※濟先生にはひきつづき囃託医としてお世話になります



【放射線科】
かとう あゆみ
加藤 亜結美



【歯科口腔外科】
あかもと あつひろ
岡本 充浩



【研修医】
いとう せいじ
伊藤 誠二

発行

公立八鹿病院 総務課

〒667-8555 兵庫県養父市八鹿町八鹿 1878 番地 1 TEL. 079-662-5555 (代) <http://www.hosp.yoka.hyogo.jp>

